

3 平面からの再現性、機能性を兼ね揃えつつ、着ぐるみとしての可愛らしさを追求していく。

意外かもしれないが、大阪は着ぐるみの一大生産地だという。茨木市にある「株式会社ふわふわ」もそのひとつ。代表取締役の大辻真弓氏が着ぐるみの制作とイベント用遊具のレンタルを二本柱に同社を設立したのは13年前。着ぐるみづくりで大切なことは、原画を忠実に再現すること、そして動きやすさだという。「原画だと足が全然見えなようなキャラクターもあるのですが、それだと歩行が困難なので、イメージを壊さないようにデフォルメして歩けるように変更しています」。さらに手の位置の調整や重量の軽減、熱中症対策として通気孔をとったり。最近では送風機を内蔵し、空気が膨らむエアを着ぐるみも扱う。この業界も空前のゆるキャラブームで新規参入も増え、価格競争も生まれて悩んだ時期もあった。だがクオリティを保つためには、今まで通りこだわりを貫こうという結論に至った。「私たちは可愛らしさと機能性・安全性を追求しています。着ぐるみ1体ずつ愛情とプライドを持って送り出していきたいです」

株式会社ふわふわ

茨木市清水1-34-12
TEL_072-641-8866
http://www.fuwafuwa.net/



関西国際空港カンクン

熊取町役場ジャンプ君

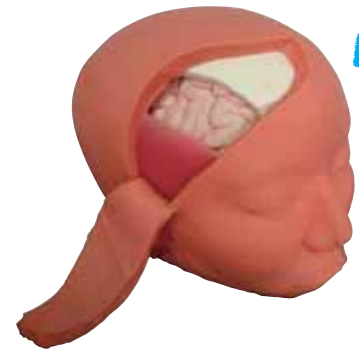
関空展望ホールスカイビュー
プービー

4 精巧に複製する高い技術力で、新市場を創造する。

ウレタン注型や加工、シリコンでの樹脂造形などを行う株式会社ユウビ造形。観賞用フィギュアをはじめ、治具、ロボットなど様々なジャンルの仕事を手がける。代表取締役の森田寿一氏は「ジャンルは関係ない。当社が狙う市場は、1個だけ作る試作と数千個作る大量生産の間、つまり100~500個ほどの『中ロット』の樹脂製品製造」と語る。樹脂成形における中ロットの製造は金型を要するためにコスト面から困難とされていたが、ユウビ造形はそれを可能にした。そのため、仕事の多くは単に製品を作るだけでなく、素材選びや生産方法を模索するところから始まる。「多品種小ロットが進めば、中ロットのニーズも高まり、市場として形成されるでしょう」と語る。神戸大学との医工連携で開発された手術訓練用脳モデルでは、臓器や骨といった異なる質感を素材のブレンドのみで精巧に表現するなど、最先端分野でも認められる技術力を武器に、新市場の創造を目指す。

株式会社ユウビ造形

東大阪市今米1-18-15
TEL_072-962-7516
http://www.yuvi.co.jp/



5

柔らかい素材を切る!『裁断機のドクター』。



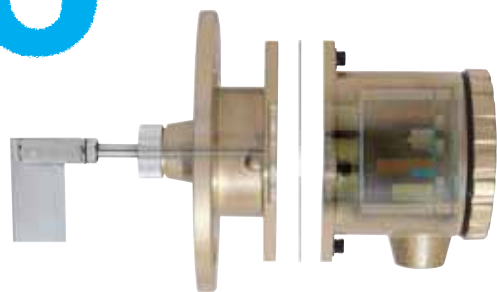
サブリーナ株式会社

東京都志岡町高月南3-14-6
TEL_0725-22-4801
http://www.suprena.co.jp/

「布のような柔らかい素材を切る、簡単に見えて意外と難しいんですよ」と笑うのはサブリーナ株式会社の代表取締役・川島淳氏。創業以来40年の歴史の中で、下請け製造や自社製品開発、海外輸出など、あらゆる裁断機ビジネスに携わり、現在はオーダーメイド裁断機の製造・販売がメインだ。裁断する素材も時代の変化に伴って変化し、布やビニールはもちろん、皮革、不織布、最近では航空部品に使われる炭素繊維やスポンジブレーなど多岐にわたる。しかも、素材や厚さが変われば切り方、さらにはその前後の工程もまったく変わり、蓄積したノウハウは、次に製造する裁断機に注がれていく。「返品ができないオーダーメイド製品は、常にお客様が期待する以上の製品を作り、納得いただけるまでフォローする必要がある、まさにメーカーの矜持が試される仕事です」と川島氏。常に切りたい素材や用途などを問診し、処方箋として最適な機械を提案する『裁断機のドクター』と言える。

6

『当然』を受け入れず、技術革新に挑戦。



関西オートメーション株式会社

大阪市北区兔我野町2-14
TEL_06-6312-2071
http://www.kansai-automation.co.jp/

粉体、粒体、液体の容積や体積を測定するレベルスイッチのメーカー、関西オートメーション。設置先の諸条件に合わせて設計・製造の必要がある粉体計測用レベルスイッチのオーダーメイドが強み。新製品『スイングマスター』は、モーターではなく電気的に駆動力を生み出す電子回路部と測定用羽根部を隔壁で完全分離しながらも、磁力で動きを伝達して測定用の羽根を動かすという振り子式レベルスイッチだ。「粉体がセンサーのアンブ内部に入り込んで動作不良を起こすトラブルは、粉体レベルスイッチの宿命と考えられてきました。しかし、その宿命を当然のことと受け入れずに変えたかった」と語る代表取締役の宮坂典央氏。そこで、同社の技術部スタッフに大手企業を定年退職した技術者を開発メンバーに加えて『スイングマスター』を開発した。「製品寿命が延び、メンテナンス回数や使用電力も低減できた。今後も粉体計測のエキスパートとして製品改良技術を高め続けたい」

変化を恐れない、変える勇気を持ってオンリーワンのものづくりをしていく。

精緻を極めたセラミックの刃。その美しい造形もさることながら、扱う食材の特性にあわせて、刃の形、設計を変え、素材の良さを損なうことなく削る、すぐれた機能を持つ。ジャパンポーレックスは独自の特殊な成型方法により、精巧なセラミック製品を開発している会社だ。代表取締役の上岡佳世子氏が、いつも社員に言うのは「変えることを恐れない」ということ。「ものづくりの方向性を変えていくにはポイントを定め、ブレずに進むことが大切。そして間違った時には、すぐ動ける体制をつくっていくこと。そう言いつつ私自身、山ほど失敗していますけど(笑)」。だからこそ常に最悪の事態を想定したシミュレーションをして動く。「経営者にとって“想定外”という言葉は許されないんです」。開発の苦しみも醍醐味も味わいたいと、上岡氏もみずから商品開発に参加する。「社員は本当に可愛い。何かあったら彼らの顔が浮かびますし。この人たちがいるから、交渉事でも絶対に譲らないと強く出られるんです」



ジャパンポーレックス株式会社

箕面市萱野1-1-28
TEL_072-724-0250
http://www.porlex.co.jp/

8

7 新しい技術開発& 技術進化こそが、中小企業が生き残る道と信じる。

精密ショットピーニング、精密ラッピングなど、金属表面加工処理が専門の株式会社オカノブラスト。精密ショットピーニングとは、金属製品の表面に微粒子を高速衝突させて金属の疲労強度を高めたり摩擦抵抗を低減する表面改質技術だ。専務取締役の岡野俊之氏は「精密ショットピーニング加工の納品先で、鏡面仕上げである精密ラッピングのニーズを感じていた」と、精密ラッピングの導入を決めた。現在は精密ショットピーニングと精密ラッピングを複合させ、独自の加工ノウハウを蓄積している。「モノが高精度かつ小型化すれば、部品寿命にスポットが当たる。すると部品寿命を延ばす効果を持つ当社の加工技術のニーズがさらに高まるでしょうね」と代表取締役の岡野俊博氏。実際に小型軽量化と高耐久性の両立を追求する自動車やバイクのレース業界からも注目されている。「他社ではできない加工技術を追及し続けます」という俊之氏の言葉に、技術力で生き抜く中小企業の底力を感じた。

株式会社オカノブラスト

堺市中区東山648
TEL_072-234-0999
http://www.okano-blast.co.jp/

